

ANNIVERSARY YEAR
SINCE 1968

50TH

THE TOKYO FUSSA ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT 2018-2019



2019.1.30 第2426回 例会
《職業奉仕月間》

東京福生ロータリークラブ
2018-19年度 例会会報 Vol.22
2019年2月6日発行



2018年～2019年度 国際ロータリークラブ会長テーマ

インスピレーションになろう

2018年～2019年度 会長 バリー・ラシン



2018年～2019年度 東京福生ロータリークラブ会長テーマ

次の50年に向けた新たなチャレンジを!

2018年～2019年度 会長 田村勝彦

本日のプログラム

2月6日(水)

点鐘:12時30分～

クラブ協議会

創立50周年について

次回のプログラム

2月21日(木)

地区大会

会場:ホテルニューオータニ

12時登録開始 13時開会点鐘

※2月20(水)例会の振り替えとなります。

会報・HP委員会

委員長:窪嶋 貴

副委員長:佐々木 美之

委員:大山 剛

委員:藤本 浩

•お食事



•点 鐘 田村会長



•ロータリーソング

「我等の生業」

ソングリーダー : 佐藤会員

ピアノ演奏 : 高橋SAA委員長



•お客様紹介 田村会長

第50期ローテックス 中嶋 香汐(なかじま かしお)様



•出席報告



出席報告 2019年1月30日

会員	出席	欠席	免除	出席率
42名	35名	4名	3名	89.74%

◇1/23出席率訂正 76.92%→82.05%

•会長報告及び挨拶



◇第10回理事会報告

議事

1. 11月会計報告
2. 慶弔規定(入院お見舞金)の変更について
3. 50周年記念事業(ランニングバイク)事業費支出について
4. 退会届について・・・高澤会員、高宮会員
5. 事務局年末年始休暇について
6. (公)米山梅吉記念館 特別寄付金について
7. 1/9新年夜間例会について
8. 次年度地区委員について
9. その他・・・大掃除メイキャップになる
クリスマス例会ゲストについて

→それぞれ承認されました

●幹事報告

- ◇第2424回(1/9)・第2425回(1/23)会報をFAX
会員に方々に配布します。1部回覧します。
- ◇2019年2月のRレートは1ドル=110円と本部から
連絡がありました。
- ◇確定申告用寄付金領収書、R財団とR米山記念
奨学会から来ました。配布します。
- ◇第11回理事会を例会後開催します。
- ◇希望の風募金ご協力お願い致します。

●委員会報告

- ◇1/25 次年度準備連絡会報告
次年度大山会長



◇創立50周年案内 キャラバン 石川実行委員長

- 2/5(火)青梅・東大和
- 2/7(木)東村山・秋川
- 2/13(水)武蔵村山



◇斎藤富美男ゴルフ同好会会長



・ニコニコBOX



田村 勝彦会長 先週の例会お休み頂き申し訳
 ありませんでした。
 本日卓話 木下先生宜しくお願い
 します。

貝塚 義博会員 木下先生 今日は卓話よろしく
 お願い致します。



粕谷 正幸会員 なかなか例会出席できず申し訳ござ
 いません。今年もよろしお願いいたし
 ます。今日も13時までになりますので
 すいません。

山本 仁志会員 木下先生 本日の卓話楽しみに
 しています。

石川彌八郎会員 3/2にライブを行います。後でチラシ
 を配らせてもらいます。
 第90回3RC親睦ゴルフコンペ
 ホストお疲れ様でした。残金ニコニコ
 にいれます。

・卓話

「職業奉仕月間にちなんで」 木下 邦彦会員



みなさんこんにちは、木下でございます。

本年度の職業奉仕委員長の貝塚さんに、ある時職
 業奉仕月間(今月)に職業奉仕に関連の卓話をして
 ほしいと頼まれ、簡単に「良いですよ」とお受けしま
 したが、なにぶん80才も半ばを過ぎますと、あらゆる
 ところが老化し、特に記憶力の低下が著しく、皆様の
 前でお話するのがとても気になりますが聴いてく
 ださい。

まず職業奉仕としてのお話をしないといけませんの
 で私なりにお話しさせていただいて、後ほど時間が
 ありましたら、我がクラブの創立から今までの概略
 や、その中で私が勉強させてもらったものがお話し
 できればと考えております。

もう十年も前ですが、あるガバナー訪問の中で職業
 奉仕はロータリーの根幹をなすものであって、四つ
 のテストに照らして、フェアであるか、社会に必要とさ
 れ貢献するものであるかが重要であるというお話し
 がありました。そして楽しく魅力あるクラブありき、良
 き友と共に奉仕というものを地区の指標に掲げてあ
 りました。

ロータリーは私が申すまでもなく、その地域の職業人
 の集まりであります。原則として一業種一人選ばれ
 たその地域における指導的立場の方であります。で
 すからクラブは同じような価値観を持つ人たちと巡
 り逢える貴重な場所だと思います。そこで信頼する
 生涯の友を作る、私これが非常に大切な事ではな
 いかと思います。これがポールハリスの思想につな
 がるんですね。

ロータリーは単なる社会奉仕団体と違うというのは、
 クラブライフが自ら研鑽の場であるということが大切
 なことではないかと思えます。

そして職業奉仕という考え方は、他の奉仕団体には
 ないロータリー特有の主義主張であります。

ロータリーははっきりと「仕事を通じての奉仕」という

**NICONICO
 BOX NOW**

本日の合計額 ¥43,097
 累計 ¥1,250,797

一枚看板を掲げて活動している。

奉仕の生活というのは決してロータリーの専売ではないし、立派な奉仕活動を勧める教えはたくさんあります。その中で人のために尽くす道はいろいろあるけれども、日常、不断にやれるのは自分の職業を通じての奉仕で、その実践がロータリーだと言われている。

従来、職業奉仕は難しい、わかりにくいと言われ続けてきましたが、職業人として一人の人間として、常に崇高な倫理観を持ち続けるよう努力するのがロータリーの職業奉仕だと思います。

人は責任のある地位に就けば就くほど高い倫理観・道徳観を持つことが求められます。

ポールハリスがクラブを作った当初は寂しさを慰め合い、お互いの利益を図るという「友愛と利益」との結びつきであったのがあまりにも利己的だという意見によって、後から「奉仕」が加えられました。正しい利益と奉仕は共存し両立するということです。

職業奉仕はその気にさえなればロータリアンの自覚一つで社会のあらゆる場面で実践できる活動であります。職業について正しい認識を広め倫理水準を高めることこそがロータリーの本道なる職業奉仕活動であります。

職業奉仕、つまり仕事を通じて人のため社会に尽くすという明確な一枚看板を掲げて活動を展開しているのはロータリーだけです。奉仕生活、奉仕活動はロータリーの専売ではありません。

それぞれの分野において、ロータリーを遥かに凌ぐ活動実績をもつ団体は他にもたくさんあるに違いありませんが、自分の職業を通じて社会に貢献する営みに日常不断に取り組んでいるのはロータリーだけです。

ロータリーの本筋は職業奉仕であります。

そして、ロータリーという職業奉仕というのは、自分の職業に対し誇りと愛情を持って経営には最大級の努力を払うがその方針は単なる金儲けばかりを目的とするのではなく、いわゆるロータリー精神というか、奉仕の精神というか、あるいはフォアウェイトの精神というようなものを汲み入れて、企業の道徳的水準を高め、その職業を通じて社会に貢献するという事ではないでしょうか。

なお、欲を言えば、更にこの信条を同業者及びその他の友人たちにも勧め誘うこと、ざっとこういうことになるのではないのでしょうか。ロータリーは人づくりのための組織だと思います。

「ロータリーと私 思いつくまに」

先ほどもお話ししましたが、よく職業奉仕はロータリーの根幹をなすものであって四つのテストに照らして、フェアであるか、社会に必要とされ貢献するものであるかが重要であるというお話しがあります。そして楽しく魅力あるクラブありき、そしてよき友と共に奉仕をという指標があります。

ロータリーは私が申すまでもなく、異業種団体であり、ひとりひとりに職業分類があって、その地域の職業人の集まりであります。

会員が皆平等で一年の輪番制で一業種一人という規則が貫かれ、その地域の指導的立場の方であります。

時間が非常に正確であり出席は厳しいけれども、例会や諸活動をすることに会員が魅力を感じていることに加えて、いろいろなメリットを自覚していますし、クラブは同じような価値観を持つ人達の巡り逢える貴重な場所だと思います。そこで信頼する生涯の友を作る一、これが非常に大切なことではないかと思えます。ロータリーが単なる社会奉仕団体と違うのは、クラブライフが自らの研鑽の場であるということが大切ではないかと思えます。企業や業界や組織の中で地位が高くなればなるほど、人は孤独になり、歳をとれば誰でも人恋しくなり友達に会いたくなります。ロータリーはそれらの願望をかなえてくれる良い組織ではないでしょうか。大切なことはコミュニケーションで知識なんてあまり役に立ちません。私は長いロータリー生活の中で、いかにロータリーがロータリアンの生活を豊かにすると同時に心を潤して来たかを見て参りました。ロータリーは友達になり、友情を深め合い、奉仕活動を通じて人づくりをするところでもあります。

例会はロータリーにとって人生の道場であり、毎週一回の例会に進んで参加することを通じて、知らず知らずのうちにロータリアンとして育っていく過程をクラブ奉仕であるという話を聞かされました。忙しい人が集まって時間を使い、お金を使って活動しているわけで、古いメンバーも新しいメンバーも平等にお付き合いし友情が芽生え感動が生まれる、このへんもロータリーの大きな利点ではないでしょうか。

私が幸ぜに思っていることは、若い時にロータリークラブに入れていただいてロータリアンとして永い間にたくさんの知己を得ました。これは計り知れない財産です。ロータリーの活動は出会いがとても大切であってさまざまなめぐり逢いの中で多くの友情が生まれたことは大変嬉しく思っています。友達は永遠です。人間は希望によって生きられるといいますが、友達は希望を支えてくれるし信念を高めてくれます。ロータリーの会員組織は単なる娯楽や親睦の

ためではなく、奉仕の心、優しい心、思いやりの精神です。ロータリアン自分のことだけを心配するようになればその意義を失います。先日、武蔵村山RCのホストで若手の会に行かせていただいたのですが、今さら自分の職業上の話などするのは甚だおこがましいのですが、私がロータリーに入れさせていただいたのが35歳、子供は育ち盛り、仕事はものすごく忙しい、その中で私ははじめ「どのくらいロータリーで頑張れるかな」と考えました。1968年、昭和43年ですが、当時私は乳牛専門の獣医師で木下家畜診療所という名称で仕事をしていたのですが、瑞穂、青梅、武蔵村山、羽村、福生熊川地区、埼玉の一部等を朝から晩まで、始めは単車、その後は自動車になったのですが、暑い日も寒い日もとんで歩きました。当時400頭の牛の患畜があれば十分に食べていけるといわれていたのですが、お陰様で2000頭の乳牛を預かったというか持っていました。一頭でも牛を診察すると体に匂いが付くんですよ。それをいかに例会に持ち込まないようにするか、少し早く帰って、シャワーして急いで例会に行った思い出が懐かしく感じられます。やはり、人間というのは忙しいのが当たり前ですよ。忙しければこうしてロータリークラブに出られない訳ですし、忙しいからこそまたロータリアンで居られる。私、そういう風に考えています。当時、そんな訳で、子供も小さい、どこか連れて行ってやりたい、仕事も一生懸命したい、勉強もしたい、そんな中で、時間を上手に使い、ロータリーに出させていただいたことが、今、私の人生に非常にプラスになっていると考えています。

もう35年も前になりますが、私が会長で村尾さんが幹事を受けてくださった時のことですが「エピソード」

もう少し職業奉仕の話をしていただきます。職業人として、一人の人間として崇高な倫理観を持ち続けるよう努力するのがロータリアンで、ロータリーの職業奉仕という風に考えています。人は責任ある地位になればなるほど、また付けば付くほど、高い倫理観と道徳観を持つことが求められるのではないかと思います。私たちは職業上、常に、商売に限らず、宗教人であれ、医師であれ、教育者であれ、すべての人が仕事の上で葛藤しておられることだと思います。

そこで我々ロータリアンは例会に出て、一週間を振り返って、ロータリーのメンバーにお会いし、心を癒し、自らを反省し、更に努力をしようということになれば、こんな機会を与えてくれるロータリーはまさに研鑽の場であり、ロータリーこそが人作りの場であると思います。ロータリアンの皆様の職業が地域社会にとって必要で重要な職業でありましょうし、それであれば皆様のお仕事をより繁栄させて、末永く貢献し続けることが職業奉仕の実践ではないかと考えま

す。ロータリーに職業奉仕がなかったら、ロータリーは他の奉仕団体とどこが違うのかと言われるように、職業奉仕は職業人であるロータリアン自らが職業を通じて、あるいは職業に関わる奉仕活動であるために、他の奉仕活動と違って、結果を本人以外はあまり目にするのが難しい奉仕活動ではないかと思えます。職業人であるロータリアンは高い倫理観と道徳観をもって、それぞれ仕事に励めということでありましょう。その仕事を通じて、地域社会に貢献することですし、職業奉仕の志を常に持ち続けて、それぞれの職業に励もうではありませんか。

ここで、私達のクラブの誕生より現在に至る歩みをお話しさせていただきます。当クラブは創立50周年記念式典を控えております。人に歴史あり、またクラブにも歴史あり、この事実はとても重いと考えます。スポンサークラブは皆様ご承知のとおり青梅ロータリークラブでございます。青梅ロータリークラブより11名が移籍してキーメンバーとなり、会員増強に努めて27名の会員をもって1968年、昭和43年11月30日、福生病院前にありましたレストラン「ふくは」で創立総会が行われました。そして翌年、昭和44年6月15日にサマーランドに於いてチャーターナイト、いわゆる認証状伝達式が行われました。すでに当時、福生には八王子からメンバーが移籍して、5年前からライオンズクラブがありました。そんな中でロータリーの会員増強は非常に難しいのではないかとされたのでございます。しかし、初代石川弥八郎さんを会長に迎えて、大聖病院の宮川昭二さん、この強力なコンビでスタートしたわけですよ。もし、石川弥八郎さんが初代会長をお受けにならなかったならば、福生クラブの設立はちょっと難しかったかなと、後にある方からお聞きしました。会長の承諾をいただいたことで福生ロータリークラブは半分以上出来たという風に当時の皆様は思ったようです。私もその中の一人でございましたけれども、すごく喜んだ記憶があります。人格、見識共に優れて、初代福生の町長さんでいらっしゃったようです。社会的にも当時の全国酒造組合の会長さんということで、非常にお忙しい中で例会は土曜日ならば良いということで土曜日になりました。クラブ会長に就任されますと、まず出席、そして謙虚に自己を見つめようというターゲットを掲げられまして、ロータリアンという自覚に徹して例会や諸行事に出席しようと呼びかけられました。特に「隔たりを取り除こう」という会長の一年間のテーマで実践されて、親しくお声をかけてくださいました。私にとっては非常に今でも心に残っております。私の父親と同年ですよ。明治生まれの方ですよ。そういう方が大勢いらっしゃって35歳の私としては、どんなに度胸が良くても小さくなりますよ。それを本当にやさしくしていただいた思い出がとても強くあります。そのお陰で私もロータリー

クラブを続けていられるのかなと思っております。私も新しい会員さんや周りの方々にも「せっかくロータリークラブに入会されて友達になったんじゃないか、古いメンバーとかそういうのは無しで、一緒に楽しく行きましょう」と心では常に思って行動しているつもりです。

皆、仕事で苦勞されて、クラブへ来て気を遣うのでは、そんなばかばかしいことはないし、ロータリークラブの原点は友達になることです。今後もそれを実践していきたいと思っております。

ロータリーがなぜ日本でこんなに盛大になったのでしょうか。日本の社会に於いてその存在意義はどこにあるのか？一業種一人という立て前があって、仕事の全く異なった人達の集まりである、違った世界に住む人達のグループなので、利害関係もあまりないし、裸の自分を見せ合えるし、比較的心を打ち明けて付き合うことが出来るし、同業組合とか法人会や商工会とは全然違った雰囲気があります。そしてロータリークラブの組織が一年交代で任期が終われば、否応なしに退任するという民主的な形式になっていることです。また、留学生の受け入れや送り出しやホームステイを通じて、各ロータリアンが知らず知らずのうちに国際感覚を身につけているのだと思います。ロータリーの最終目標は世界の平和の維持と人間社会の向上である。そのためには、ロータリーの「人作り」が重要であります。ロータリーの運動は精神的な心の交流が重要で会員相互間に心の交流が深まることによってお互いに学び合い、ロータリアンとして成長していくことが、目的である人作りにつながるわけです。言うまでもなく、ロータリーの第一の目的は友達を作ることであり、友情を通じて親善の輪を拡げて奉仕の活動を進めていくことあります。

第二の目的は人作りであります。もちろん、ロータリアン自身の人間形成もありますが、青少年育成に対して誠意をもって対応し、これを奨励することですが、若い世代の方々にロータリーに入会していただき、共に歩み、共に成長していくことが大切な人作りであります。

そして第三の目的は奉仕活動に参加することによって、ロータリアン個人がクラブで、また地域でさまざまな活動を通じて、共に感動を共有することです。

よくロータリーとは何ですか？と質問されます。

「1905年、アメリカのシカゴの一青年が友人3人と始めたクラブで世界各地のそれぞれの地域内の堅実な実業家や専門職業人が自主的に集合し、世のため人のために何か尽くそうと理想を持って明日に向かって努力している人の集まりですよ」と答えています。

又、簡単に云いますと、我々が地域で人並に生活出

来るのは地域の皆様のおかげで少しでもお返しが出来ればと云う人達の集まりです。

人生は山あり谷ありと云いますが、まあお金に苦勞することはありましたが、大した難所もなく過ぎてきました。

体が丈夫であったというのが良かったかなと思います。

生き生きと生きるには何が大切でしょう。

誕生から学生時代までは第一の人生と考えますが、心身の発達、向上という目的がありました。

次に仕事、了結婚、子育てに励んだ第二の人生、そして迎えた第三の人生には時間がたっぷりあるはずが現役にこだわりあまり自由時間がない。同級生は皆それなりに自由な時間を楽しんで過ごしている。最近、自分とは何か？・・・なんてふと考えます。ペースメーカーを植込んだことで生死の境をのぞいたような感覚もあり、普段あまりにも無神経に生きていたような気がして反省しています。

しかし今を大切に充実した日々を送っています。

人生を豊かにするために、どうしても必要な条件が一つあります。

それは元気であること。何をするにも、元気でないと出来ないことばかりです。ロータリーを心の支えとして、残り少ない人生を夢いっぱい、感動いっぱいに一日一日を生きたいと思います。

最後に、私が50年前にロータリーに入会した当時、先輩ロータリアンに聞かされた言葉に「出席なくしてロータリーなし、親睦なくして奉仕なし」本当の親睦は例会に出席して話し合いお互いに学び合う、理解を深め合う。そこが基本であるということを再認識して終わりたいと思います。

•謝辞 田村会長



•点鐘 田村会長

